

会津地鶏のデビーク実施日齢の違いによる生産性

福島県農業総合センター 畜産研究所養鶏分場

1 部門名

畜産一鶏一畜産ほ育・育成、畜産衛生・疾病

2 担当者

根本光輔

3 要旨

(1)背景・目的

会津地鶏を飼養する生産現場では、通常7日齢前後で実施するデビーク作業を短時間で実施するため、餌付け時(1日齢)や3日齢でデビークを実施している。そこで、デビーク実施日齢の違いによる生産性への影響を調査した。

(2)結果

○デビーク実施日齢が早い程作業時間は短くなった。餌付け時(1日齢)に実施する場合は、雛の捕獲作業がないため作業時間短縮につながる。

○悪癖の発生や死亡鶏はなく、同等の発育を示したことから、デビーク実施日齢の違いによる生産性への影響はなかった。

表1 区の設定と成績

区	デビーク実施日齢	羽数(羽)	捕獲時間	デビーク作業時間	悪癖の発生	16週齢体重(g)		飼料要求率
						雄	雌	
1日区	1日齢(餌付け時)	100(雄50,雌50)	0分	22分20秒	なし	3232.2	2162.2	3.09
3日区	3日齢	100(雄50,雌50)	3分	21分41秒	なし	3216.8	2082.7	3.18
5日区	5日齢	100(雄50,雌50)	6分	22分10秒	なし	3205.9	2065.3	3.12
7日区	7日齢	100(雄50,雌50)	8分	25分20秒	なし	3336.3	2158.8	3.05

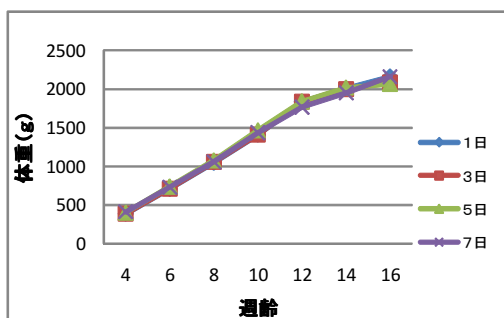


図1 雄の体重の推移

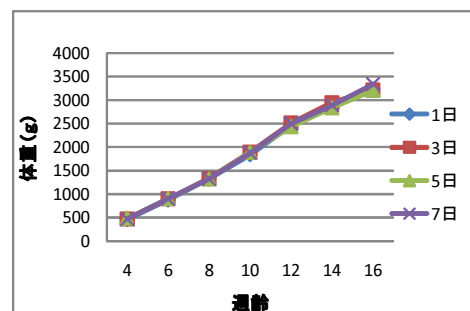


図2 雌の体重の推移

4 主な参考文献・資料

(1) 昭和61年度～63年度福島県養鶏試験場試験成績概要

(2) 平成18年度福島県農業総合センター試験成績概要